三重県多気郡明和町
斎宮跡埋蔵文化財調査報告14

史跡 斎宮跡

平成8年度現状変更緊急発掘調査報告

平成10年3月

明和町教育委員会

序

史跡斎宮跡は、指定面積が約137haにおよぶ全国でも有数の大規模史跡です。

昭和45年以来続けている発掘調査の面積は約18haに達し、時代による変化や、方格地割の規模、建物の配置などその様相が次第に明らかになりつつあり、注目度はますます高くなってきています。

しかし、斎宮の全貌を明らかにするには、まだまだ長い年月を要します。

この貴重な文化遺産を後世に残すため、地元地権者の協力を得て、昭和54年以来土地の公有化を年次的にすすめており、平成８年度末で約22haに達しております。

この公有化した土地は、昭和57年度から三重県により史跡整備が進められ、斎王まつりをはじめ各種行事の会場として活用され、県内のみならず県外からも訪れる人が多くなってまいりました。さらに、六年度から三重県教育委員会が事業主体となって斎宮駅の北側で実施される「歴史ロマン再生事業」の大規模な整備に着手していただいており、その完成に町民をはじめ、県内外から期待がよせられています。

さて、このように斎宮跡の保護・保存・活用が進むなか、一方では広大な史跡内に約600世帯におよぶ住民が生活している特殊性から生活に結びつく現状変更等許可申請書が数多く提出されます。

この報告書は、平成８年度に提出された現状変更の中で事前調査が必要であった６件についての結果をまとめたものであります。これらは小規模なものがほとんどでありますが、第117-５次調査では、史跡北部をめぐる鎌倉時代の大溝が確認され、これまでの推定を裏付けることとなりました。これらの成果の積み重ねにより斎宮跡の姿がより明確になることを期待するものであります。

最後になりましたが、発掘調査にご理解とご協力をいただきました地元地権者のみなさま、発掘調査から報告書作成に至るまでご協力いただいた斎宮歴史博物館調査研究課に対してここに厚くお礼を申し上げます。

平成10年３月

明和町教育委員会

教育長　中　山　正　美

例　　言

1　本書は、明和町教育委員会が平成８年度に実施した史跡斎宮跡の現状変更緊急発掘調査の結果をまとめたものである。

　なお、第117-１・２・５・６次の発掘調査は国庫及び県費の補助金の交付を受けて実施したものであり、第117-３・４次の調査は、原因者が費用を負担して実施したものである。

2　調査は明和町教育委員会が調査主体となり、斎宮歴史博物館調査研究課及び明和町教育委員会斎宮跡対策課が担当した。

3　遺構の実測にあたっては、国土調査法による第Ⅵ座標系を基準とし、方位は座標北を用いた。

4　遺構の時期区分は、「斎宮跡の土師器（三重県斎宮跡調査事務所年報1984)」による。

5　遺構表示記号は、次のとおりである。

ＳＢ；掘立柱建物　ＳＡ；柵　ＳＫ；土坑　ＳＤ；溝　ＳＥ；井戸　ＳＦ；道路　ＳＸ；その他

6　特に標示がない限り、遺物の実測図は実物の４分の１、遺物写真は約３分の１である。

7　調査の実測図・写真等の関係書類及び出土遺物は、斎宮歴史博物館で保管している。

8　現地の発掘調査及び本書の作成には、斎宮歴史博物館調査研究課の駒田利治、野原宏司、上村安生、大川　操（旧姓　赤岩)、角正芳浩、石渕誠人と明和町教育委員会斎宮跡対策課の中野敦夫、森田幸伸があたり、熊﨑司（京都府立大学々生）の参加を得た。

　また、遺物整理等に当たっては島村紀久子、角谷和代、奥田康子、鈴木美智子、西村秋子、杉原泰子及び松月浩子、八木光代の協力を得た。

目　　次

1　前　　言 …… 1
2　第117-1次調査 …… 2
3　第117-2次調査 …… 3
4　第117-3次調査 …… 4
5　第117-4次調査 …… 7
6　第117-5次調査 …… 9
7　第117-6次調査 …… 12
付篇　史跡現状変更等許可申請…… 13
発掘調査報告抄録…… 18

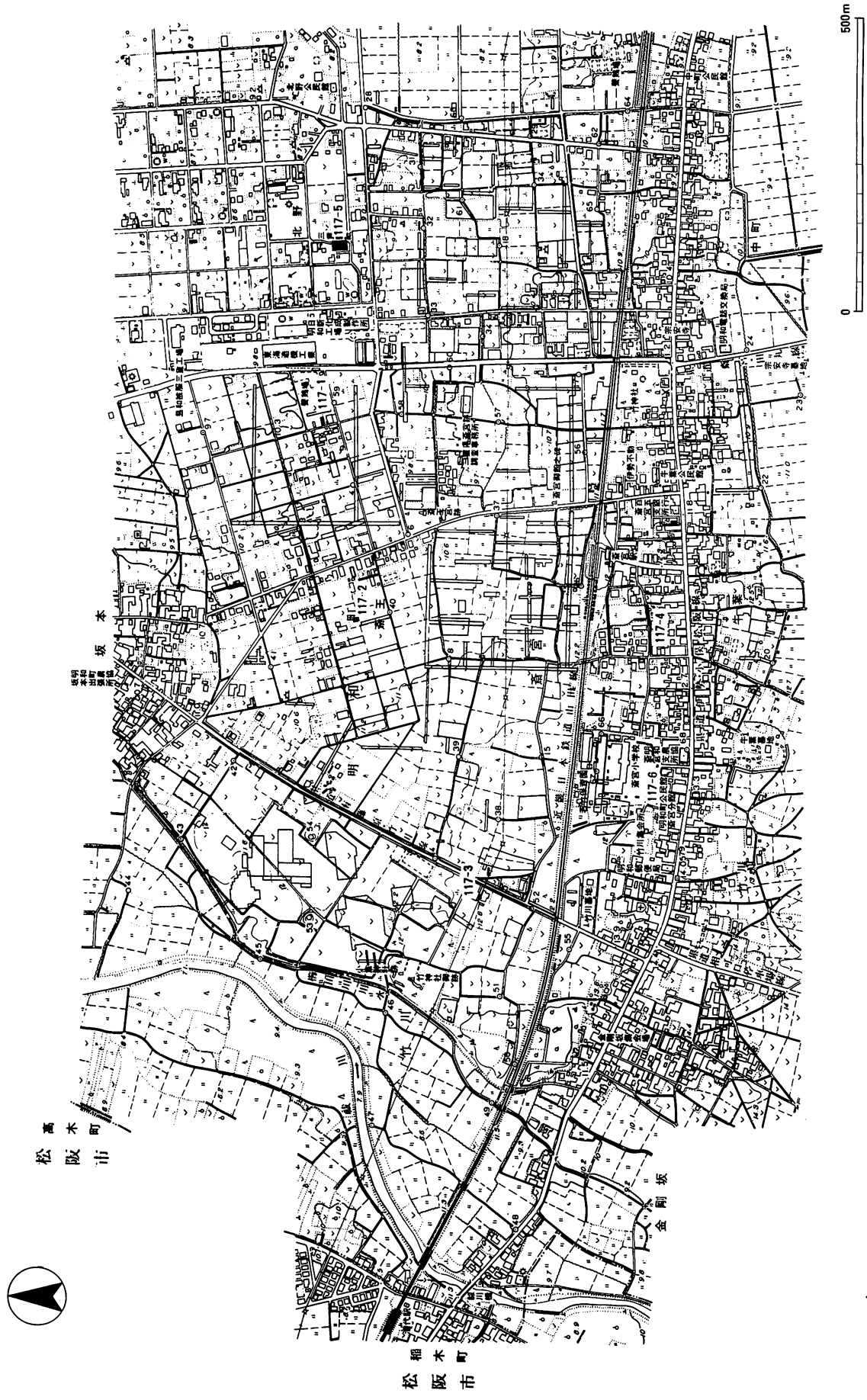
表・挿図目次

〔表〕1　史跡現状変更等許可申請の推移 …… 1
2　第117-5次調査溝底レベル測定値…… 10
3　平成8年度現状変更等許可申請一覧表 …… 14
4　第117次調査出土遺物観察表…… 16

〔図〕1　発掘調査地区位置図（1:10,000）
2　第117-1次調査　調査区位置図（1:5,000）…… 2
3　〃　遺構実測図(1:200) …… 2
4　〃　遺物実測図(1:4) …… 3
5　第117-2次調査　調査区位置図（1:5,000）…… 3
6　〃　遺構実測図(1:200) …… 3
7　〃　遺物実測図(1:4) …… 4
8　第117-3次調査　調査区位置図（1:5,000）…… 4
9　〃　遺構実測図(1:200) …… 5
10　〃　遺物実測図(1:4) …… 6
11　第117-4次調査　調査区位置図（1:5,000）…… 7
12　〃　遺物実測図(1:4) …… 7
13　〃　遺構実測図(1:100) …… 8
14　第117-5次調査　調査区位置図（1:5,000）…… 9
15　〃　遺構実測図(1:200) …… 9
16　〃　SD7836･7837･7838断面図(1:50) …… 10
17　〃　遺物実測図(1:4) …… 11
18　第117-6次調査　調査区位置図（1:5,000）…… 12
19　〃　遺構実測図(1:100) …… 12

写　真　図　版

ＰＬ１　第117-1・2次調査　上；第117-1次調査区全景（東から）下；第117-2次調査区全景（南から）
ＰＬ２　第117-3・6次調査　上；第117-3次調査区全景（西から）下；第117-6次調査区全景（北から）
ＰＬ３　第117-5次調査　上；第117-5次調査南区全景（南から）下；第117-5次調査北区全景（南から）
ＰＬ４　第117次調査　遺物写真



第１図　発掘調査地区位置図（1:10,000）

1 前　　言

斎宮跡では史跡指定以来18年間で845件の史跡現状変更の許可申請が出されているが、平成８年度は例年より比較的少ないとはいえ、47件の申請が提出された。その内容は、史跡内住民による住宅や農業用倉庫の増築や改築或いは上水道及び道路の改修、新設等であり、許可条件に応じて事前の発掘調査或いは工事立会いを実施している。しかしながら、調査箇所が限定される等問題点も残されている。

ここに報告する緊急発掘調査は、個人の用に供する住宅及び車庫等の建築で補助対象事業となった３件と地域生活環境整備にかかる公共事業２件並びに民間業者による宅地開発１件で原因者負担として発掘調査を実施したものである。

第117次調査のうち史跡東部の平安時代に営まれた方格地割の区画内で実施したものは、町道側溝にかかる第117-4次調査のみであり、他の調査は史跡縁辺部の調査である。

第117-4次調査は、幅0.6ｍ・延長80ｍの細長いトレンチ調査であり、鎌倉時代前半期を埋没時期とする東西方向の溝３条やわずかな柱穴を確認しているが、掘立柱建物としてまとまるところまでは確認できていない。

第117-5次調査は、史跡北東部で第37-1・4次調査（昭和56年度）の調査区に隣接して実施したものであり、史跡北辺部を弧状にめぐる鎌倉時代の大溝を確認しており、この溝と平行して数条の溝が確認されており、この「鎌倉時代大溝」の性格を解明する資料が得られた。

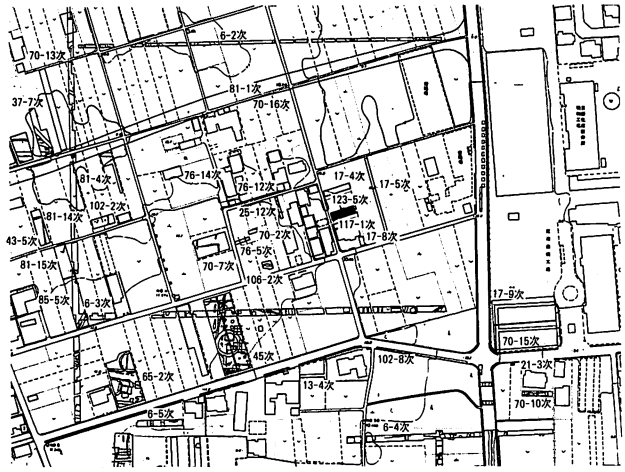
これら史跡現状変更に伴う緊急発掘調査は、様々な制約から必ずしも充分な調査とはいえず、遺跡の保存にとっても少なからず問題を抱えているが、斎宮跡の解明にとっては大きな一助となっており、調査上の制約や調査実施上の困難さを解決する必要がある。　　（駒田利治）

年　度	現状変更申請数	発掘調査件数	調査面積（㎡）	補助金事業調査件数	補助金事業調査面積（㎡）
S. 54	33	17	3,968	12	996
55	60	12	1,281	10	815
56	53	12	5,416	10	696
57	50	8	657	7	577
58	52	16	3,757	10	1,440
59	30	15	2,884	12	1,589
60	39	8	1,260	5	1,014
61	54	12	1,845	9	1,507
62	57	16	2,854	13	1,620
63	46	17	8,820	7	1,131
H. 元	57	16	7,091	9	1,061
2	58	8	1,397	5	914
3	46	3	1,550	1	1,190
4	41	6	895	5	825
5	48	8	1,670	6	1,090
6	35	6	1,360	4	1,032
7	39	2	587	1	480
8	47	6	709	4	613
合　計	845	188	48,001	130	18,590

第１表　史跡現状変更等許可申請の推移

2　第117-1次調査（６ＡＥＦ）

調査場所　多気郡明和町斎宮字楽殿2894-1
原　　因　個人住宅新築
調査期間　平成８年９月６日～10月４日
調査面積　80㎡



第２図　第117-１次調査区　位置図（１：5,000）

１）はじめに　今回の申請地は、史跡北辺部を東西に通過する町道塚山線（通称「歴史の道」）沿い南側の楽殿地区に所在する。この地区では住宅の新築等に伴い小規模ながら事前発掘調査が行われ、奈良時代及び鎌倉時代の遺構が顕著に分布することが知られる。

また、本調査地周辺では、昭和52年度に第17-4・17-5、17-8次調査が実施され、溝、土坑、小穴等が確認されている。さらに、本調査区の北側では　史跡北辺部を巡る鎌倉時代の大溝が通過することも想定されている。

２）調査概要

イ　遺　構　調査地の現況は畑地であり、16ｍ×5ｍの調査区を設定し、面積は80㎡である。包含層は薄く、表土下0.2ｍ～0.35ｍで地山面を検出した。調査の結果、木の根による攪乱が多くみられたが、主な遺構として溝３条と土坑１基を検出した。

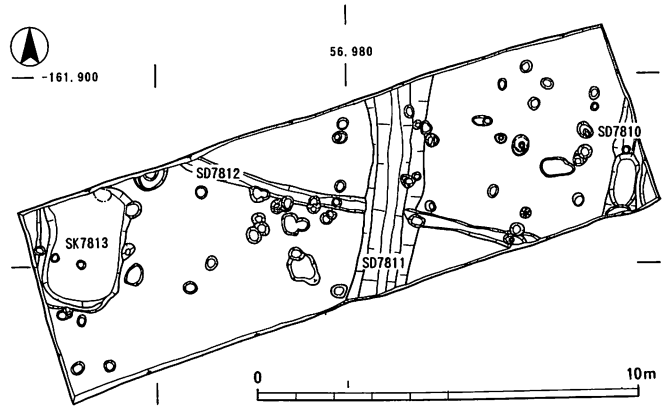
ＳＤ7810は、調査区東端で一部を検出した概ね南北方向の溝である。溝幅は約0.6ｍ、深さは0.1ｍ～0.15ｍ、断面は浅い三日月状を呈する。ＳＤ7811は、調査区中央で検出し、ＳＤ7810と約５ｍの間隔をおいて並走する。溝幅約1.5ｍ、深さ0.2ｍ前後、断面は三日月状であるが、溝底のレベルはほぼ一定している。ＳＤ7812は、溝方向が東西に対してやや北側へ振る方位でＳＤ7811に切られる。溝幅0.4ｍ前後、深さ0.1ｍ～0.15ｍで、溝底のレベルはほぼ一定である。

土坑ＳＫ7813は、調査区西端でほぼ全体を確認した。平面プランは、長方形で長軸3.3ｍ×短軸1.8ｍ、深さ約0.3ｍで、北辺には焼土が残存する。

表土及び包含層からは平安時代末期から鎌倉時代前期にかけての土師器杯・甕・鍋、灰釉陶器、山茶椀が出土した。

ＳＤ7810～7812からは土師器や山茶椀の細片等がわずかに確認されるだけである。

ＳＫ7813からは平安時代末期の土師器皿（1・2）・鍋（3・4）、山茶椀（5・6）が出土している。

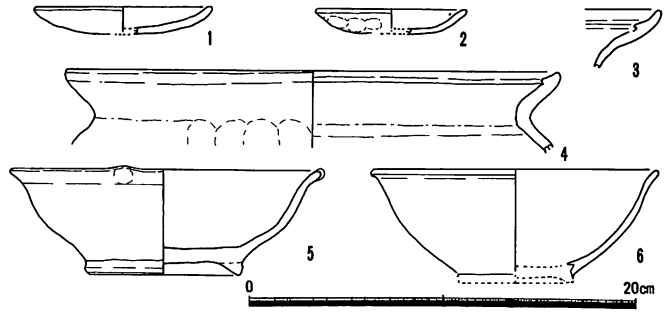


第３図　第117-１次調査　遺構実測図（１：200）

その他、黒色土器１片、瓦器１片、青磁18片が出土している。

ハ　まとめ　今回の調査では、平安時代末期～鎌倉時代前期の遺構・遺物を確認し、この地区では、斎宮の中心時期である奈良時代後期から平安時代にかけては、空閑地であったことが知られる。

（野原宏司）

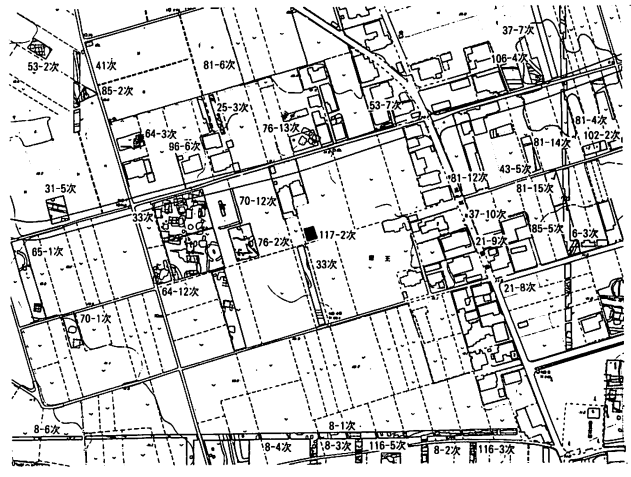


第４図　第117-１次調査　遺物実測図
ＳＫ7813；１～６

3　第117-2次調査（６ＡＣＭ）

調査場所　多気郡明和町斎宮字篠林3155・3156
原　　因　個人住宅新築
調査期間　平成８年10月21日～11月６日
調査面積　54㎡

１）はじめに　今回の申請地は、史跡北辺部を東西に通過する町道塚山線（通称「歴史の道」）沿い南側の篠林地区に所在する。この地区では住宅の新築等に伴い小規模ながら事前発掘調査が行われ、奈良時代及び鎌倉時代の遺構が顕著に分布することが知られる。



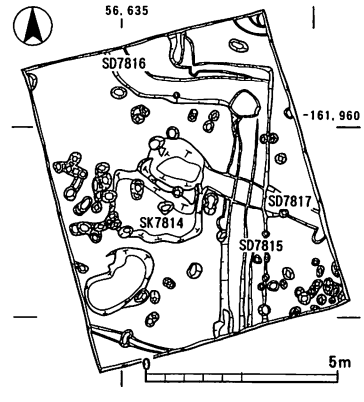
第５図　第117-２次調査区　位置図（１：5,000）

本調査地周辺では、昭和56年度に第33次、昭和61年度に第64-12次、昭和62年度に第70-12次、昭和63年度に第76-2次調査が実施され、溝、土坑、小穴等が確認されている。

２）調査概要

イ　遺　構　調査地の現況は畑地であり、８ｍ×6.75ｍの調査区を設定し、面積は54㎡である。調査は、厚さ約0.2ｍの表土層を除去し、黒ボク土からなる厚さ約0.2ｍの遺物包含層の下層の橙色粘質土の地山面で遺構を検出した。調査の結果木の根による攪乱が多くみられたが、主な遺構として溝３条と土坑１基を検出した。

ＳＤ7815は、調査区東部で鍵状に折れる幅約0.45ｍ、深さ約７㎝で黒褐色粘質土を埋土とし、北から５°東に振り、南北方向に約6.7ｍで西に直角に折れ、２ｍほど続いて途切れる。ＳＤ7816は、調査区中央部から東部において検出され、２度直角に折れ曲がる幅約0.6ｍ、深さ約0.1ｍで、北から３°東へ振りＳＤ7815とほぼ同じ方向を示す。重複しており、ＳＤ7815より新しい。ＳＤ7817は、調査区中央



第６図　第117-２次調査
遺構実測図（１：200）

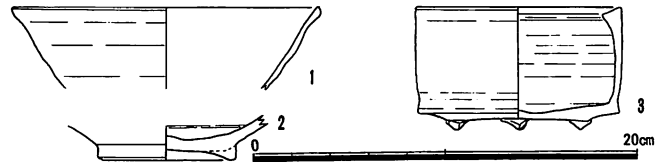
部で検出した、幅約0.5m、深さ約0.1mの溝で、西から15°北に振り、調査区中央でＳＫ7814と重複関係にあり、先端部は、木の根と思われる凹地により攪乱される。ＳＫ7814より新しい。

ロ　遺　物　表土及び包含層からの出土は極めて少なく、また遺構出土の遺物も少ない。整理箱全体で４箱のみの出土量である。遺構出土の土器は、時期の判別できるもので14世紀の山茶椀が土坑ＳＫ7814で出土している。ＳＤ7815からは、近世の陶器片も出土している。全体的には、内面に叩き圧痕をもつ須恵器甕の破片が目立つ。

その他、青磁２片が出土している。

ハ　まとめ　今回の調査では、遺構面が木の根等により攪乱されている箇所が南半分を中心に広がり、小さなピット群はその根の痕と判断される。調査区を南北方向に延びる溝は、周辺の調査で確認されている方形周溝遺構の溝とは、時期が異なり室町時代のものと考えられる。

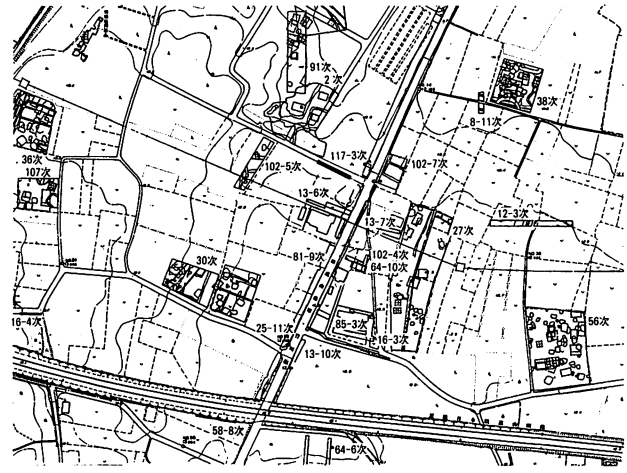
（赤岩　操、駒田利治）



第７図　第117-２次調査　遺物実測図
ＳＫ7814；１、ＳＤ7815；３、包含層；２

4　第117-3次調査（６ＡＢＪ）

調査場所　多気郡明和町竹川字中垣内地内
原　　因　町道竹川13号線の簡易舗装
調査期間　平成９年１月16日～１月31日
調査面積　48㎡



第８図　第117-３次調査区　位置図（１：5,000）

１）はじめに　今回の申請地は、史跡南西部中垣内地内で、県道南藤原竹川線から西側に延びる町道竹川13号線の簡易舗装に伴い、事前発掘調査を実施したものである。本調査地周辺では、斎宮跡発見の端緒となった昭和48年度第２次調査（古里Ａ地区）をはじめとする計画調査や、個人住宅新築に伴う事前調査として平成５年度に第102-5次調査等が実施され、弥生時代の方形周溝墓、奈良時代や鎌倉・室町時代の掘立柱建物・溝・土坑等の遺構が濃密に分布することが知られる。今回の調査は、博物館南部、古里ひろば（史跡公園）南端沿いの現道部分を対象として、幅2m、長さ24mの調査区を設定し、面積48㎡である。

２）調査概要

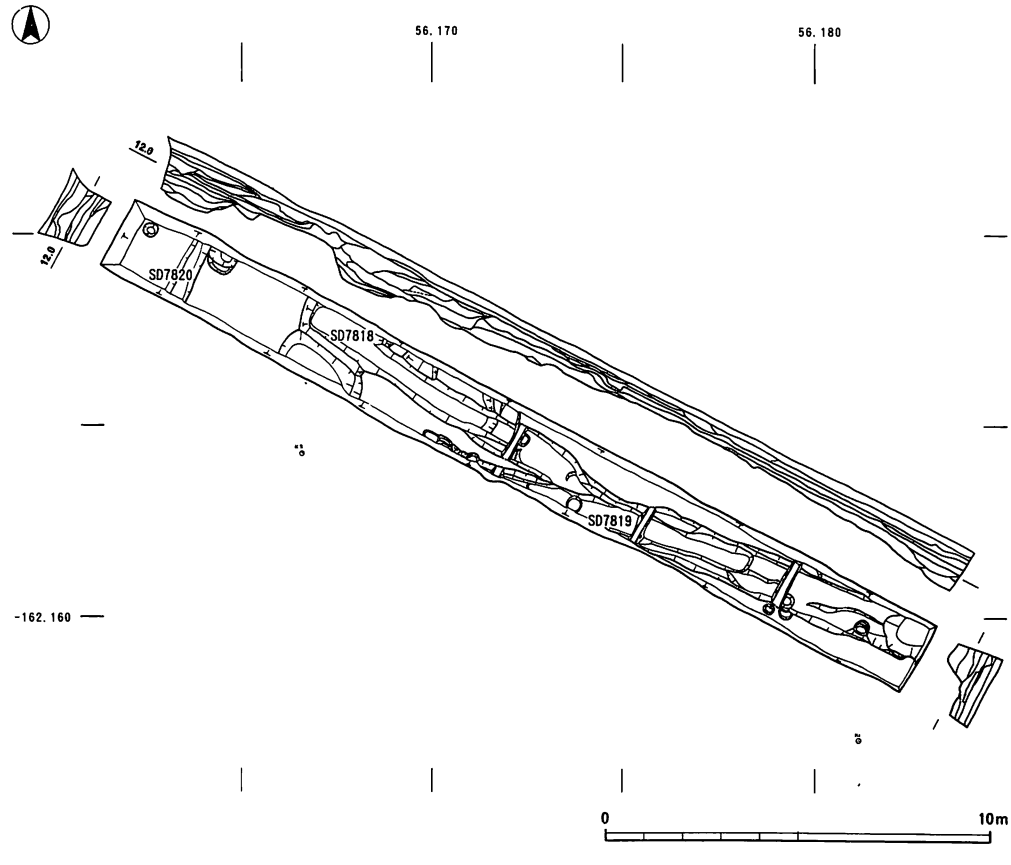
イ　遺　構　表土下約0.7mで地山面を確認し、主な遺構として溝３条を検出した。ＳＤ7818は、調査区東半で検出した幅0.9m～1.1m、深さ0.1m～0.35mの溝で、断面形は逆台形を示し、

埋土は暗茶褐色である。溝底のレベルは、ＳＤ7819と重複する辺りを最高点として、西方及び東方に緩やかに傾斜する。ＳＤ7819は、ＳＤ7818に切られており、埋土は黒褐色土で、溝幅約0.7ｍ、深さ0.15ｍ～0.3ｍである。ＳＤ7820は、調査区西端で部分的に確認し、全体は明らかではないが、概ね南北方向に延びるものと考えられ、深さ約0.7ｍ、断面形は逆台形をなす。溝幅は底面で約1.2ｍ、上面では2.2ｍ程度と推定される。

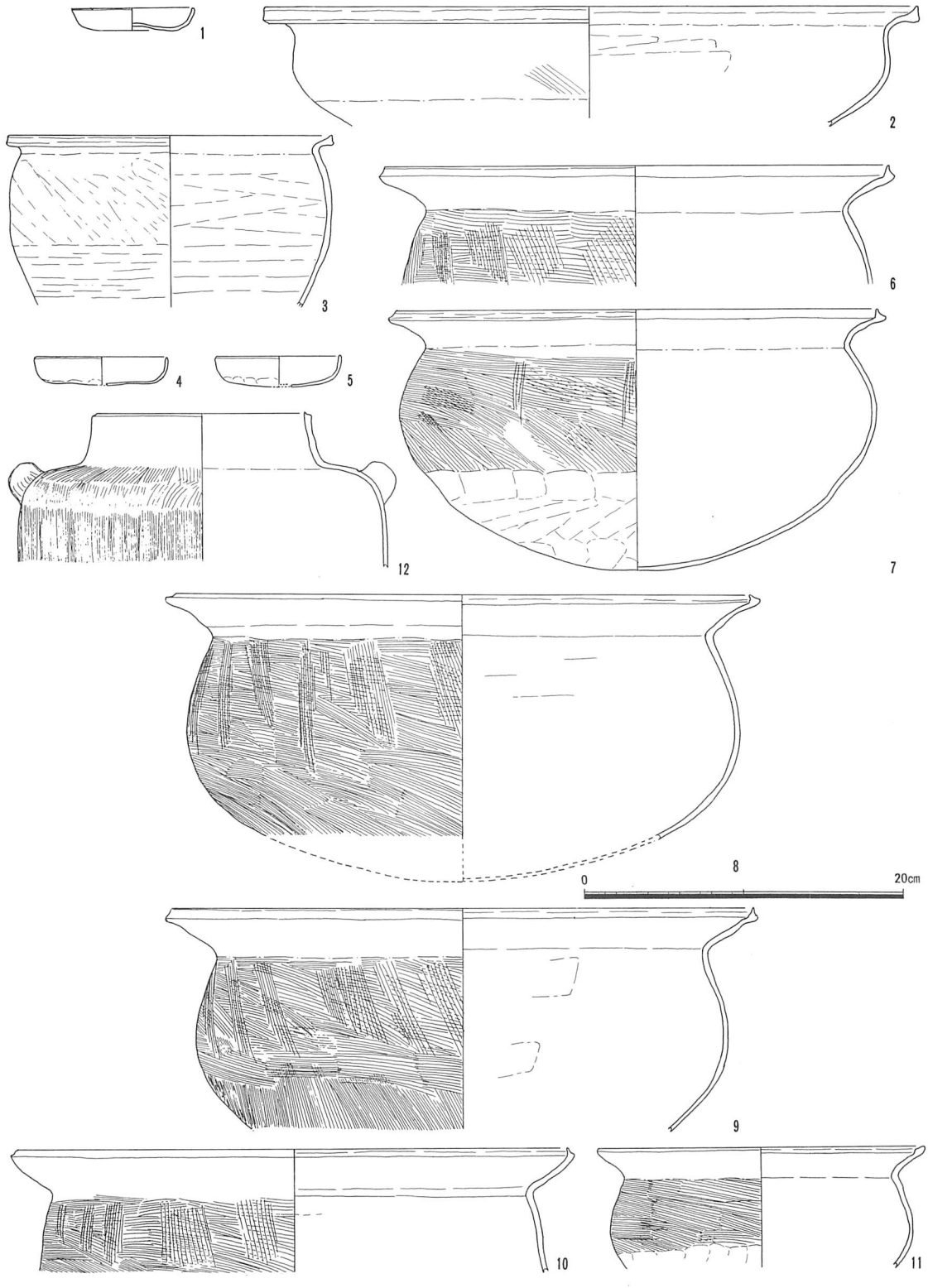
口　遺　物　ＳＤ7818～7820からは、土師器皿・甕等が出土している。皿（１）は、口径7.8㎝・器高1.4㎝で、口縁部はわずかに内弯してやや外方に開き、器壁は比較的厚い。甕（３）は、「く」字状に短く開き、端部で肥厚する。体部内外面とも板状具によるナデを上半外面では斜めに、下半では横方向に施し、ハケ調整は行われていない。

ＳＤ7819からは、土師器皿（４・５）、鍋（６～11）、茶釜（12）が出土している。鍋は、口径20.8㎝の小形品で、口縁端部が折り返され、断面が偏平な形状を示す。（11）以外は、口径30㎝～38㎝の大形品で、口縁部が「く」字状に開く形状をなし、口縁端部が摘み上げられ断面形が三角形状となる。「く」字状に開く口縁部の形状から外弯気味に開く（６・７）、ほぼ直線的に開く（８）、内弯気味に開く（10）に区分できる。外面調整は、上半部を斜め方向にハケ調整し、下半部をヘラケズリする。ハケ調整が、下半部に及ぶものもみられる。なお、ＳＤ7819は、土師器を主体とし、山茶椀等の陶磁器の共伴は認められない。ＳＤ7819は、伊藤編年の第４段階のものと考えられる。（伊藤裕偉「中世南伊勢の土師器に関する一試論」『Mie history』vol.1 1990　三重歴史文化研究会）

この他に緑釉陶器１片、青磁片１片、土錘１点が出土している。



第９図　第117-３次発掘調査　遺構実測図（１：200）



第10図　第117-３次発掘調査　遺物実測図　ＳＤ7818；１～３、ＳＤ7819；４～12

ハ　まとめ　　今回の調査区は、幅が狭小で遺構の性格を十分に把握できたといえないが、この地域における斎宮寮衰退期以降とされる室町時代の様相を知るうえでは、調査成果の蓄積の一端となるであろう。　　（野原　宏司、駒田　利治）

5　第117-4次調査（６ＡＤＰ）

調査場所　多気郡明和町斎宮字牛葉地内
原　　因　町道既設側溝の改修
調査期間　平成９年１月27日～１月31日
調査面積　48㎡

第11図　第117-４次調査区　位置図（１：5,000）

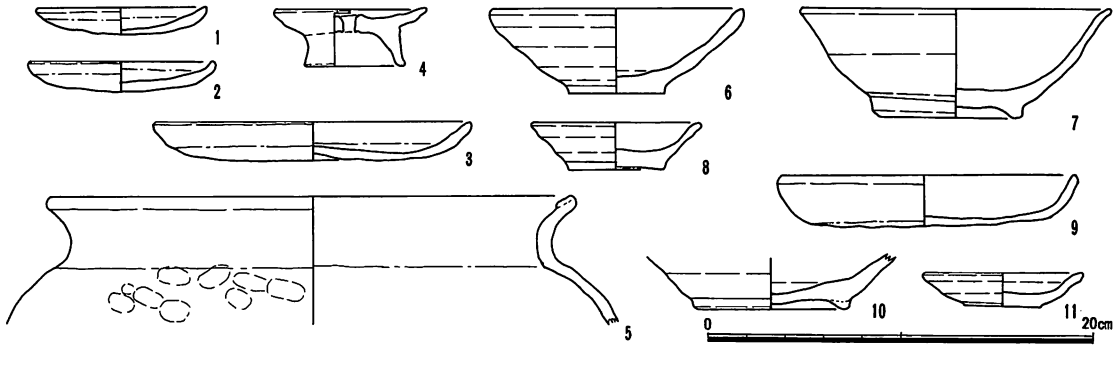
１）はじめに　今回の申請地は、近鉄斎宮駅南側の住宅密集地域において、町道斎宮15号線地内の既設Ｕ字溝及び既設排水管を県型側溝に改修するものである。当該地域では第31-1次調査など現状変更に伴う事前調査が部分的に行われているが、遺構・遺物の実態がほとんど把握されていないところでもある。

２）調査概要

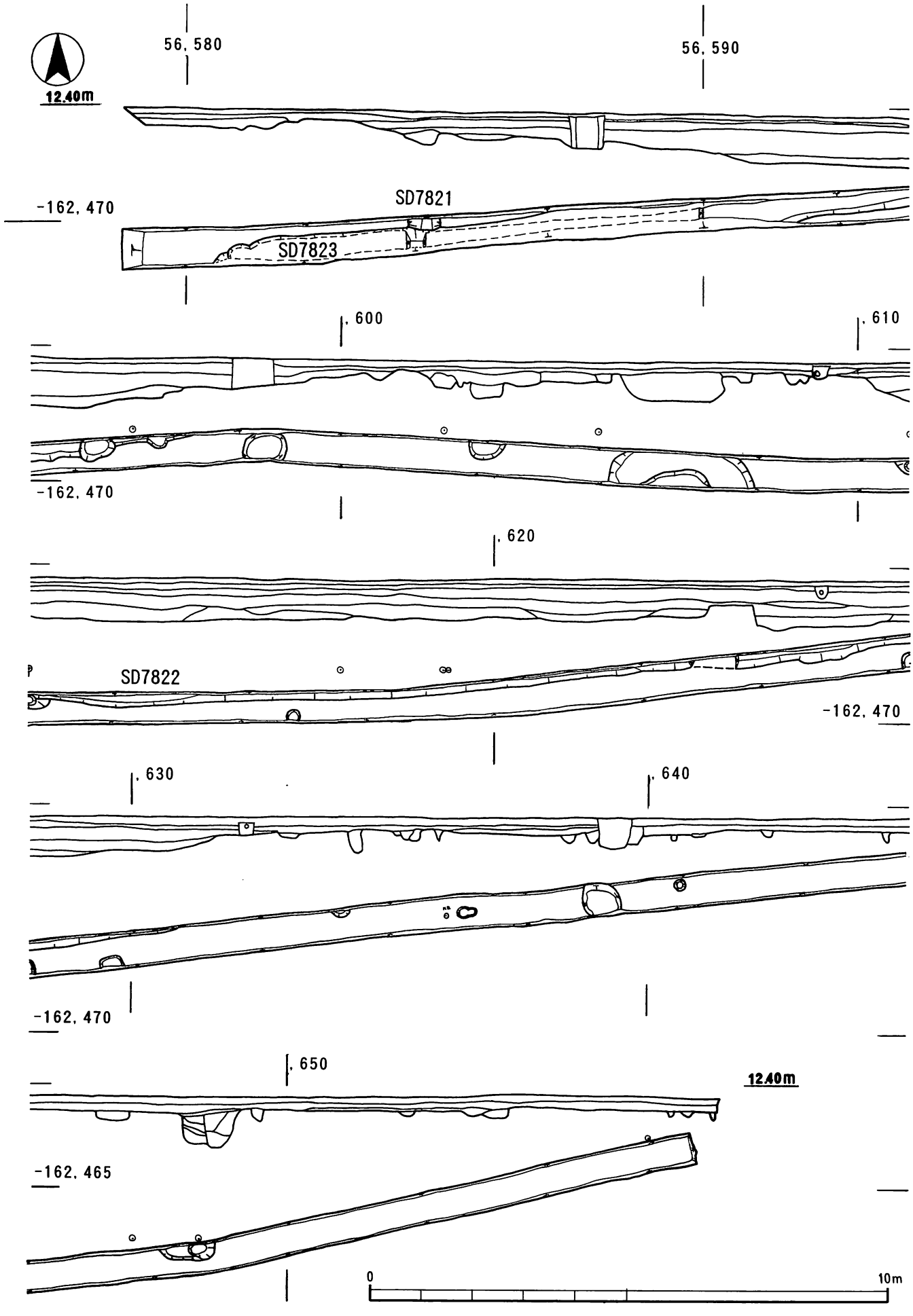
イ　遺　構　調査区は、側溝の改修工事に伴う掘削の範囲に合わせて設定し、幅約0.6ｍ、総延長約80ｍの細長いトレンチとなった。遺構検出面までの深さは浅く0.2ｍ～0.3ｍであった。大部分は既設のＵ字溝及び排水管工事の際に破壊を受けていたが、ＳＤ7821やＳＤ7822などの深い遺構はその底の部分が残っていた。ＳＤ7821は、溝底で幅0.4ｍであることを確認したが、ＳＤ7822は、調査区の北壁に少しかかるだけで規模は確認できなかった。ＳＤ7823はＳＤ7821より先行する南北溝であるが、方格地割の南北溝とは位置が異なる。調査範囲が狭いため、掘立柱建物としてまとまるような遺構は検出されなかった。

ロ　遺　物　ＳＤ7821とＳＤ7822から鎌倉時代前半の土師器皿、山茶椀・山皿が出土しているが、その量は整理箱４箱と少ない。

ハ　まとめ　今回の調査では、東西溝２条と南北溝１条を確認した。その他、柱掘形と思われる小穴を確認しているが建物としてはまとまらなかった。また、遺構面が比較的浅いため、各所に既設排水管やＵ字溝の工事に伴う攪乱がみられた。今後は周辺地域での資料の蓄積と遺構の性格を解明していく必要がある。　（上村安生）



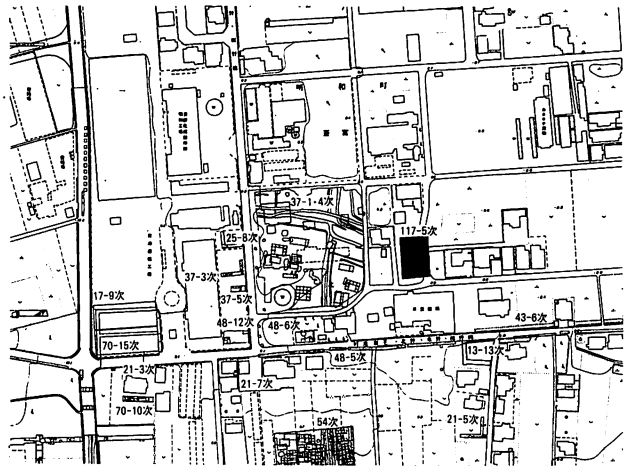
第12図　第117-４次調査　遺物実測図　ＳＤ7821；１～８、ＳＤ7822；９～11



第13図　第117-4次調査　遺構実測図（1：100）

6　第117-5次調査（６ＡＦＣ－Ｍ）

調査場所　多気郡明和町斎宮字北野3551-1他
原　　因　社宅の新築
調査期間　平成９年２月17日～３月17日
調査面積　465㎡

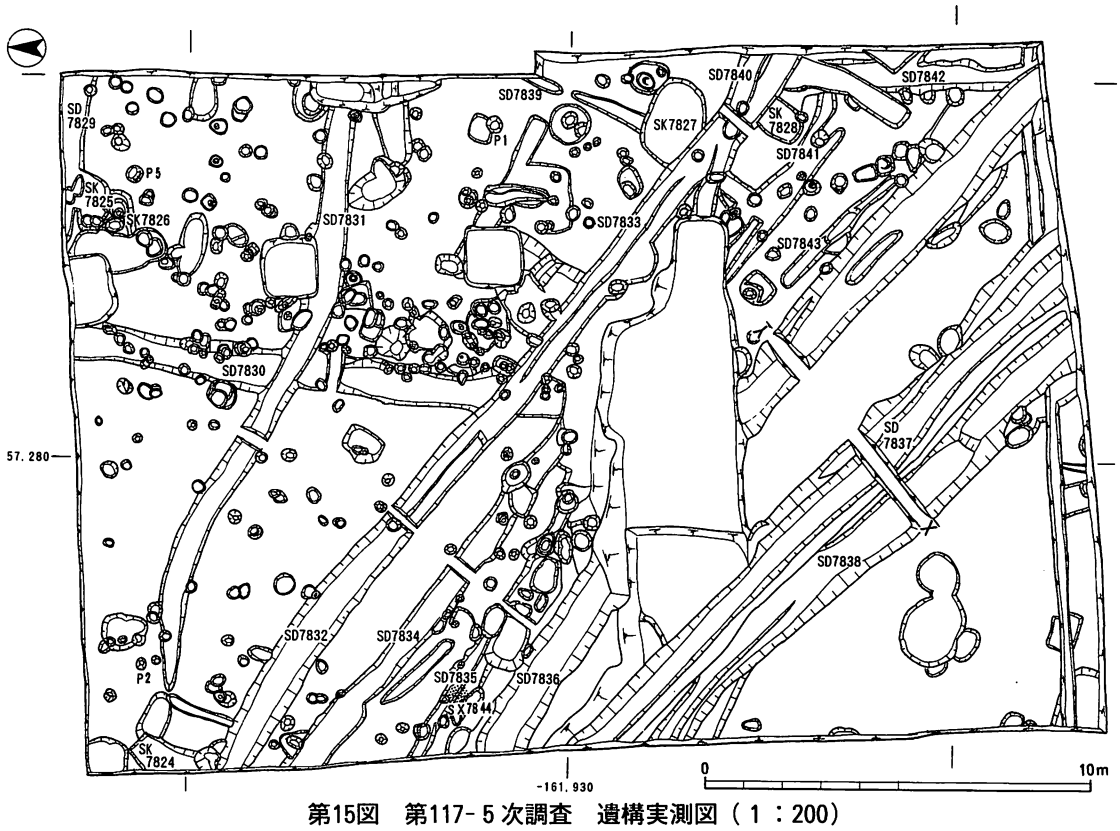


第14図　第117-５次調査区　位置図（１：5,000）

１）はじめに　今回の申請地は、史跡北東部に位置し、戦前に軍の施設が建設されていたこともあり、部分的に遺構面が攪乱されていた。しかし、近接して調査された第37-1･4次調査（昭和56年）で確認されている史跡の北部を囲む鎌倉時代大溝のほか、並行する溝群を検出することができた。第37-1･4次調査では「水司鴨□」のヘラ描き土器が出土しており、斎宮跡の官衙配置を考察する資料を提供したが、周辺地区での調査は現状変更に限られ、その後昭和58年度に第48-5･6･12次、昭和62年度に第70-10･15次が実施されている。

２）調査概要

イ　遺　構　調査地の現況は雑種地であり、戦前の軍の施設のためか遺物包含層が攪乱を受け認められない箇所もある。また、資材置場として利用されていたこともあり、山砂による盛土が行われており、わずかに残されている旧表土と推定される面から遺構面の深さは0.2



第15図　第117-５次調査　遺構実測図（１：200）

m～0.4mであり、現況の盛土面からは0.5m～0.9mである。

遺構は、平安時代後期の土坑5基、溝1条、鎌倉時代初期の溝14条のほか小穴、土坑状の落ち込み等がある。SD7832・7833・7834・7835・7836・7837・7838は、ともにほぼ平行しており、調査区内での溝底レベル（第3表）及び地形からみて、溝としての機能から考えれば、北西から南東方向に流れるものと判断される。しかし、史跡北辺をめぐる鎌倉時代の大溝SD7837は、史跡西部で溝底レベル8.0m（第97-1次調査）をはじめとして、史跡内で確認された溝底レベルは、6.7m～8.6mと必ずしも東側が低いとは言いがたく（『史跡斎宮跡　平成6年度現状変更緊急発掘調査報告』参照）、鎌倉時代の大溝は、排水機能のみを重視するものとは考えがたい。

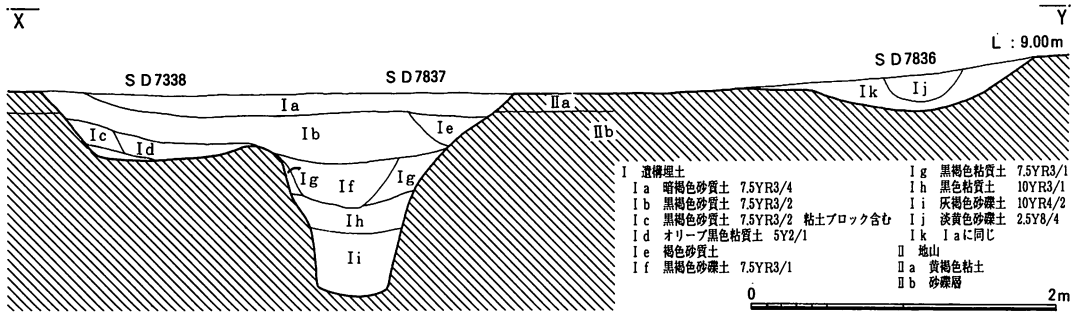
北西から南東方向に延びる溝群は、出土遺物からそれぞれの溝の埋没時期が12世紀後半から13世紀初期と近接しており、相前後して設けられたことがうかがわれる。

SD7837・7838は、第37-1･4次で確認されている鎌倉時代大溝に繋がるものであり、断面観察では両者の新旧関係は明瞭ではないが、遺構検出段階ではSD7837が新しいと判断できた。すなわち、上幅1.5mほどで西側に先行する深さ約0.45mの浅い溝SD7838の北肩を掘り込んで、上幅約2.1m、下幅約0.5m、深さ約1.3mの断面が箱型のSD7837が設けられたと考えられ、この状況は隣接する第37-1･4次調査でも確認されている。

SD7837の南側は、遺構密度が極めて稀薄な地区となっており、道路或いは築堤状の遺構の存在が推定される。ちなみに、第37-1･4次調査ではSD5の南にSD2428とSD2435に挟まれた道路SF2427を想定したが、今回の調査区内では両側溝は確認されていない。

遺　構　名	西端レベル	東端レベル	高　低　差	備　　考
SD7832	8.57	8.50	−0.07	SD7833を含む
SD7834	8.73	8.63	−0.10	調査区内で途切れる
SD7835	8.56	8.53	−0.03	調査区内で途切れる
SD7836	8.37	8.21	−0.16	
SD7837	7.08	7.18	+0.10	鎌倉時代大溝
SD7838	7.98	8.00	+0.02	

第2表　第117-5次調査　溝底レベル測定値



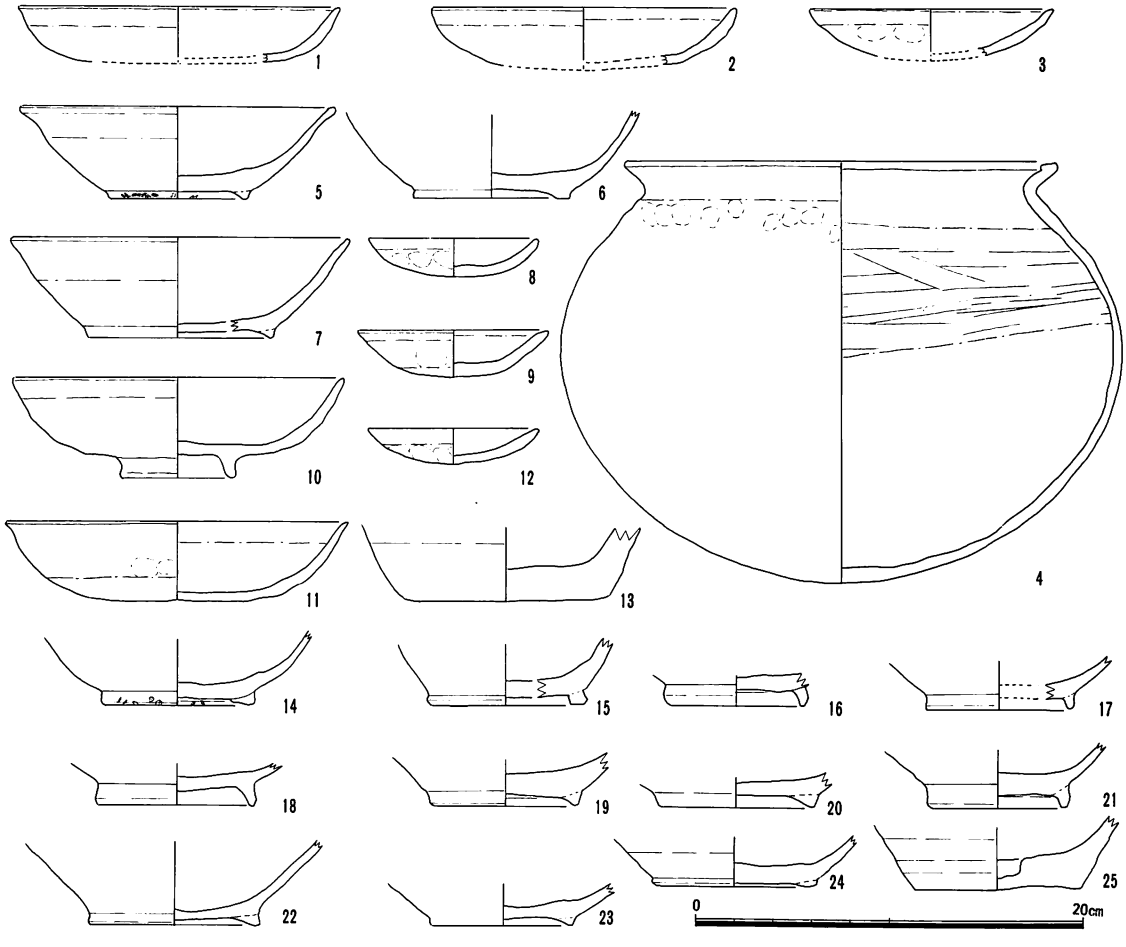
第16図　第117-5次調査　SD7836・7837・7838断面図（1：50）

ロ　遺　物　包含層及び遺構からの遺物の出土は少ない。遺物の中心を占めるのは山茶椀であり多くは底部の破片である。その形状から、時期は藤澤良祐氏編年（『尾呂』瀬戸市教育委員会1990）の12世紀から13世紀前半に属するものと考えられる。（１～７）はまとまって出土したもので、いずれも内外面に火を受けた痕跡がみられ、一定の同時代性をもつ遺物群として評価できる。また、土師器小皿の（８）と（９）は同じ遺構の中から伏せられた状態で重なって出土しており、人為的に埋められた可能性も考えられる。

ＳＤ7838をはじめとする各溝からは、いずれも少量の山茶椀等が出土している。ＳＤ7837及びＳＤ7838は、灰釉陶器と山茶椀が混在して出土しており、その年代は10世紀後半から13世紀とみられ、これは大きな時期幅をもつ。このことより、鎌倉大溝と従来呼ばれているこの溝の最終的な埋没時期は、今回の調査区においては13世紀後半と考えられる。(13) は中世陶器の底部とみられ、ＳＤ7832の中から出土した。

この他、今回の調査では灰釉陶器の底部や須恵器甕・ロクロ土師器の椀と、緑釉陶器６片、青磁１片、白磁２片、製塩土器３片、土錘１点が出土している。

ハ　まとめ　今回の調査では、第37-1･4次調査で確認されていた鎌倉時代大溝の延長を確認し、史跡西部から大きな孤を描きながら史跡北部を取り囲んでいることを確認した。また、これと平行する溝群を数条確認しており、平安時代後期から鎌倉時代初期の斎宮との関係が注目される。（熊﨑　司、駒田利治）



第17図　第117-５次調査　遺物実測図　ＳＸ7844；１～７、Ｐ５；８・９、Ｐ１；10、Ｐ２；11、Ｐ６；12、ＳＤ7832；13、ＳＤ7838；14～24、ＳＤ7837；25

7　第117-6次調査（６ＡＣＭ－Ｂ）

調査場所　多気郡明和町竹川字東裏266-6
原　　因　個人車庫の新築
調査期間　平成９年３月５日～３月10日
調査面積　14㎡

第18図　第117-６次調査区　位置図（１：5,000）

１）はじめに　今回の申請地は、旧参宮街道沿いの住宅裏手にある畑地で、斎宮小学校前に位置する。

周辺では斎宮小学校建設に伴う第15次調査をはじめ、平成７年度には隣接地で第110-1次調査を実施しており、飛鳥・奈良時代の円形周溝・方形周溝が分布することが確認されている。また小学校地の調査では四脚門が検出されるなど、方格地割西縁辺における様子をうかがうことのできる地点での調査である。

２）調査概要

イ　遺　構　調査区は、申請地の北東隅で幅1.8ｍ×長さ8.0ｍ、面積約14㎡を調査した。この申請地は現況畑地で、この一帯では従前より土壁の粘土を採掘したため低地となっており、畑土を相当量搬入したとのことであった。耕作土は厚さ約0.3ｍで、その下から明黄橙色の地山を検出している。

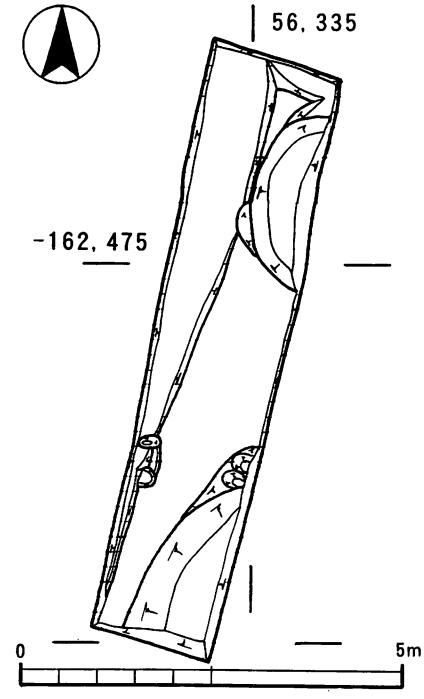
この調査区内では残存する遺構が認められず、粘土採掘の際のものと思われる攪乱坑を３基検出したのみである。

ロ　遺　物　残存遺構が皆無であることから、遺構に伴う遺物はみられない。粘土採掘の攪乱坑から、土師器片が出土している。

ハ　まとめ　周辺調査の結果から、当該地区でも周溝遺構の存在或いは四脚門等に伴う掘立柱建物の存在が予想されたが、粘土採掘の攪乱坑により表土以下が搬入盛土によるものであることが判明した。

しかしながら周辺における調査箇所は斎宮小学校地を除くと極めて少なく、遺構残存状況を把握するためにも周辺部の調査を進めていかなければならないことが課題としてあげられる。

（赤岩　操）



第19図　第117-６次調査　遺構実測図（１：100）

付篇　史跡現状変更等許可申請

平成８年度中の斎宮跡にかかわる史跡現状変更等許可申請は、47件提出された。このうち史跡の実態解明のための計画的発掘調査にかかわるものが６件（うち１件は次年度実施予定の申請）のほか、個人住宅の新築等の現状変更に伴う事前の発掘調査が６件あった。

そのほかの35件については住宅密集地の宅地敷地内における増築や改築など比較的小規模であったり、工事が簡易で地下遺構に影響を及ぼさないもので、基礎掘削工事にあたっては斎宮歴史博物館並びに明和町教育委員会職員の立会いを実施している。

８年度の申請の内容は、一覧表のとおりであり、これらの申請を（Ａ）個人等から申請されるもの、（Ｂ）公共機関等による地域の生活環境整備に伴うもの、（Ｃ）史跡環境整備および維持管理等に伴うもの、（Ｄ）史跡の実態解明のための計画的発掘調査を実施するに当たっての申請に分けることができる。

（Ａ）個人等による申請

個人等による申請は22件あった。そのうち保存管理計画における土地利用区分のうえで第三種保存地区に該当するところに住宅・車庫の新築および社宅の新築等の申請４件について事前の発掘調査を実施した。他の18件については個人住宅や農業用倉庫などの増築および改築等で土地利用区分の第四種保存地区にあたり、これらは工事立会いを条件に許可を得ており基礎の掘削の深さが地下遺構まで達せず、史跡に影響を及ぼすことなく施工している。

（Ｂ）公共機関等による地域の生活環境整備に伴う申請

この申請は13件の提出があり、その内容は、道路の舗装や側溝等の改修が８件、電柱等の設置が２件のほか防火水槽の設置、水道管の布設替え、橋梁の整備である。この内調査が対象となったものは、町道簡易舗装に伴う第117-３次調査と側溝の改修に伴う第117-４次調査の２件があり、その他は工事立会いで着工している。

（Ｃ）史跡環境整備および維持管理等に伴う申請

史跡の維持管理および活用にかかわる事業等について６件の申請が提出された。その内容は、史跡整備地内の樹木の移植等が３件のほか史跡を管理するための資材置き場の整地、斎宮跡出土遺物を収蔵する仮設プレハブの建設、史跡地内にある文化財の名称標柱の設置である。

（Ｄ）計画的発掘調査のための申請

これは、三重県教育委員会が主体となり、斎宮歴史博物館が担当して実施しているもので６件の申請が提出され、3,266㎡が調査された。これらの内容については斎宮歴史博物館から別途調査概報が刊行されている。

（中野敦夫）

第3表　平成8年度現状変更等許可申請一覧表

	申請地	種別	申請者	変更内容	申請受付日	許可日	変更面積	区分	備考
1	斎宮字篠林3144-2	A	阪井政文	個人住宅改築	8.4.5	8.6.3	82.4㎡	4	
2	斎宮字牛葉107	A	大西義孝 大西正次	個人住宅改築	8.4.17	8.5.10	97.27㎡	4	
3	斎宮字楽殿2819-2	C	明和町教育委員会 (斎宮跡対策課)	管理用資材置場整地	8.5.8	8.6.17	757.64㎡	1	
4	斎宮字楽殿2894-4	A	中川聡樹	個人住宅新築	8.5.27	手続き中	85.29㎡	3	第117-1次調査
5	斎宮字上園3109他	D	三重県教育委員会	計画発掘調査	8.5.31	8.8.8	648㎡	1	第115次調査
6	竹川字東裏263-1	A	尾松邦彦	個人住宅増築	8.6.14	8.7.11	23.69㎡	4	
7	斎宮字楽殿2893-1	A	北川和也	個人住宅改築	8.6.27	8.7.11	34.79㎡	4	
8	斎宮字楽殿3218-4	A	中村勤一	個人住宅・倉庫増築	8.7.9	8.9.24	69.68㎡	4	
9	斎宮字篠林2890-7	A	藤川守	個人住宅増築	8.7.9	8.8.26	39.75㎡	4	
10	斎宮字上園3106他	D	三重県教育委員会	計画発掘調査	8.7.26	8.9.24	240㎡	1	第116-2・3・4次調査
11	斎宮字柳原2779-2他	D	三重県教育委員会	計画発掘調査	8.8.2	8.9.24	1,120㎡	1	第114次調査
12	斎宮字牛葉地内	B	明和町(建設課)	町道側溝改修	8.8.9	9.9.19	L=110m	4	第117-4次調査
13	斎宮字篠林3155	A	伊藤龍也	個人住宅新築	8.8.14	手続き中	107.31㎡	3	第117-2次調査
14	斎宮字中西2404	A	岡田裕明	個人住宅増築	8.8.20	8.9.9	53.41㎡	4	
15	斎宮字牛葉3397-2	A	中川肇二	個人住宅改築	8.8.20	8.9.9	81.25㎡	4	
16	斎宮字北野3554-6	A	㈲射和土木	社宅新築	8.8.27	手続き中	156.44㎡	3	第117-5次調査
17	斎宮字塚山3312他	D	三重県教育委員会	計画発掘調査	8.9.19	8.11.21	420㎡	1	第116-1次調査
18	竹川字東裏266-2	A	高木若素	個人の車庫建築	8.10.2	手続き中	56.8㎡	3	第117-6次調査
19	斎宮字篠林3173	A	山崎廣三	個人住宅ブロック塀の設置	8.10.2	8.10.16	L=40.2m	4	
20	竹川字東裏地内	B	明和町(建設課)	町道舗装の修繕	8.10.3	8.11.11	L=50m	4	
21	竹川字古里地内	B	明和町(総務課)	防火水槽の設置	9.1.24	9.2.23	24㎡	1	
22	斎宮字中西地内	B	明和町(建設課)	町道舗装の修繕	8.10.3	8.11.11	L=100m	4	

23	斎宮字篠林3148-4	A	森　川　博　司	個人住宅改築	8.10.8	8.11.20	80.79㎡	4	
24	竹川字古里地内	C	(財)国史跡斎宮跡保存協会	樹木の植栽	8.10.14	8.11.20	L=120m	3	
25	斎宮字楽殿2888-3	A	丸　山　勇　一	個人住宅増築	8.10.21	8.11.11	66.25㎡	4	
26	竹川字古里503	C	三重県教育委員会	仮設収蔵庫の建設	8.11.27	8.12.17	307.15㎡	3	
27	斎宮字篠林3201他	D	三重県教育委員会	計画発掘調査	8.11.20	8.12.17	64㎡	1	第116-5次調査
28	斎宮字塚山地内	B	明和町(建設課)	町道舗装	8.11.14	9.1.12	L=180m	3	
29	竹川字中垣内地内	B	明和町教育委員会(斎宮跡対策課)	町道簡易舗装	8.11.18	9.1.16	L=432m	3	第117-3次調査
30	竹川字東裏ほか地内	B	三　重　県(松阪土木事務所)	県道側溝改修	8.11.22	9.1.8	L=259.6m	4	
31	斎宮字牛葉3032-1	A	澄　野　　衛	個人住宅ブロック塀の設置	8.11.25	8.12.12	L=26.8m	4	
32	斎宮字内山3043-1	A	乾　　秀　治	既設駐車場舗装	8.11.25	9.1.8	946.43㎡	4	
33	斎宮・竹川地内	C	文化財標柱設置実行委員会	文化財名称標柱の設置	8.12.2	8.12.24	10本	3	
34	斎宮字牛葉地内	B	明和町(水道課)	水道管の布設替え	8.12.9	9.2.7	L=135m	4	
35	斎宮字楽殿2890-5	A	宇田工務店	倉庫の建設	8.12.9	9.1.21	153.2㎡	4	
36	竹川字中垣内地内	B	三　重　県(松阪土木事務所)	橋梁の整備	8.12.9	9.1.21	L=10.5m	4	
37	竹川字東裏地内	B	明和町(建設課)	町道舗装改修	8.12.12	9.1.12	L=180m	4	
38	斎宮字御館地内	B	中部電力㈱	電柱支線の取付け	8.12.18	9.2.17	1本	1	
39	斎宮字塚山3287	B	中部電力㈱	電柱・支線の建植	9.1.22	9.3.3	1本	3	
40	斎宮字牛葉109	A	冨山隆一郎	個人住宅ブロック塀の設置	9.1.20	9.2.5	L=21.4m	4	
41	斎宮字中西613	A	山　上　　實	個人住宅新築	9.2.10	9.3.3	62.935㎡	4	
42	斎宮字塚山地内ほか	C	斎宮歴史博物館	樹木の移植	9.2.27	9.3.19	59本	1･3	
43	斎宮字塚山地内	C	明和町教育委員会(斎宮跡対策課)	樹木の移植	9.2.19	9.3.5	163本	1	
44	竹川字南浦地内	B	三　重　県(松阪土木事務所)	県道側溝の改修	9.2.19	9.4.8	L=130m	4	
45	斎宮字木葉山130-6	A	渡　辺　和　明	農業用倉庫改築	9.3.5	9.3.26	60.5㎡	4	
46	斎宮字内山3046-16他	D	三重県教育委員会	計画発掘調査	9.3.21	9.4.8	950㎡	1	第118次調査
47	斎宮字鈴池332	A	八　田　秀　穂	農業用倉庫の改築	9.3.28	9.6.2	101.72㎡	4	

第４表　第117次調査　遺物（土器）観察表

第117-１次調査

No.	出土遺構	器種	法量	調整・技法の特徴	胎土	焼成	色調	残存度	備考	登録番号
1	ＳＫ7813	土師器 皿	(口径) 9.4cm (器高) 1.4cm	口縁部ヨコナデ、底部外面オサエ・内面ヨコナデ	密	良好	内：橙 5YR8/4 外：浅橙 5YR6/8	25%		Ｒ１
2	ＳＫ7813	土師器 皿	(口径) 8.0cm (器高) 1.3cm	口縁部ヨコナデ、底部外面オサエ・内面ナデ	密	良好	内：浅橙 10YR8/3 外：浅橙 10YR8/3	50%	器形の歪み大きい	Ｒ２
3	ＳＫ7813	土師器 鍋	(口径) — (器高) —	口縁部オリカエシ後ヨコナデ	わずかに砂粒含む	良好	内：浅黄橙 10YR8/3 外：浅黄橙 10YR8/3	5%		Ｒ６
4	ＳＫ7813	土師器 鍋	(口径) (26)cm (器高) —	口縁部オリカエシ後ヨコナデ、頸部外面オサエ・内面ナデ	微細砂、雲母わずかに含む	良好	内：浅黄橙 10YR8/4 外：灰白～淡橙10YR7/1～10YR7/1	12%		Ｒ５
5	ＳＫ7813	陶器 山茶椀	(口径) 16.0cm (器高) 5.5cm (高台径) 8.0cm	口縁部ロクロナデ、底部外面イトギリ後ナデ・内面一定方向ナデ	～８㎜砂粒含む	正立重ね焼き	内外：にぶい黄橙 10YR7/2	60%	内面自然釉掛かる 口縁部３か所指による輪花	Ｒ３
6	ＳＫ7813	陶器 山茶椀	(口径) (15)cm (器高) (6)cm (高台径) (6)cm	口縁部ロクロナデ、	砂粒少なく精良	正立重ね焼き	内外：灰白 2.5YR8/1	12%	内面自然釉掛かる	Ｒ４

第117-２次調査

No.	出土遺構	器種	法量	調整・技法の特徴	胎土	焼成	色調	残存度	備考	登録番号
1	ＳＫ7814	陶器 山茶椀	(口径) (16)cm (器高) — (高台径) —	口縁部ロクロナデ	～３㎜砂粒含む	良好	内：灰黄褐 10YR6/2 外：黄灰 2.5Y6/1	10%	灰釉掛かる	Ｒ７
2	包含層	陶器 山茶椀	(口径) — (器高) — (高台径) 7.4cm	底部外面イトキリ	微砂粒含む	良好	内：褐灰 YR5/1 外：褐灰 10YR5/1	底部完形		Ｒ８
3	ＳＤ7815	陶器 筒形香炉	(口径) 10.8cm (器高) 6.9cm	口縁部・体部ロクロ水挽き底部外面ロクロケズリ	密	良好	内：灰白 2.5Y7/2 外：黄褐 2.5Y5/6	30%	口縁部内面から体部外面黄褐色施釉	Ｒ９

第117-３次調査

No.	出土遺構	器種	法量	調整・技法の特徴	胎土	焼成	色調	残存度	備考	登録番号
1	ＳＤ7818	土師器 皿	(口径) 7.8cm (器高) 1.4cm	口縁部ヨコナデ、底部外面オサエ	密	良好	内：にぶい橙 7.5YR6/4 外：橙 5YR7/6	95%		Ｒ９
2	ＳＤ7818	土師器 鍋	(口径) (42)cm (器高) —	口縁部オリカエシ後ヨコナデ、体部外面ハケ部分的に残る・内面ナデ、体部下半ヘラケズリ	密	良好	内：橙 5YR7/8	12%	外面口縁部以下煤付着	Ｒ５
3	ＳＤ7818	土師器 甕	(口径) 20.5cm (器高) —	口縁部ヨコナデ、体部外面上半・内面イタナデ、体部下半ヨコ方向ケズリ	密	良好	内：赤褐 2.5YR4/8	30%	体部煤付着	Ｒ８
4	ＳＤ7819	土師器 皿	(口径) 8.4cm (器高) 1.8cm	口縁部ヨコナデ、底部オサエ	微細砂わずかに含む	良好	内：にぶい褐 7.5YR6/3 外：にぶい橙 7.5YR7/4	25%		Ｒ10
5	ＳＤ7819	土師器 皿	(口径) 8.0cm (器高) 2.0cm	口縁部ヨコナデ、底部外面オサエ	微細砂わずかに含む	良好	内：浅黄橙 7.5YR8/6 外： YR/	25%		Ｒ13
6	ＳＤ7819	土師器 鍋	(口径) 33cm (器高) —	口縁部オリカエシ後ヨコナデ・端部断面三角形、体部外面タテハケ・内面ナデ	密	良好	内：にぶい黄褐 10YR7/4	80%	外面煤付着	Ｒ２
7	ＳＤ7819	土師器 鍋	(口径) 30.5cm (器高) 16.5cm	口縁部オリカエシ後ヨコナデ・端部断面三角形、体部外面上半ハケ・下半ヘラケズリ、体部内面ナデ	密	良好	内：にぶい橙 7.5YR7/4 外：にぶい橙 10YR5/4	25%	外面煤付着	Ｒ７
8	ＳＤ7819	土師器 鍋	(口径) 38cm (器高) (18)cm	口縁部オリカエシ後ヨコナデ・端部断面三角形、体部外面ハケ、体部内面ナデ、底部調整不明	微砂粒含む	良好	内：灰黄褐 10YR5/2 外：にぶい黄橙 10YR6/3	30%	外面煤付着	Ｒ６
9	ＳＤ7819	土師器 鍋	(口径) 37.2cm (器高) —	口縁部オリカエシ後ヨコナデ・端部断面三角形、体部外面ハケ、体部内面ナデ、底部調整不明	微砂粒含む	良好	内： YR/ 外：にぶい黄橙 10YR7/4	30%	口径やや歪み有り、外面煤付着	Ｒ１
10	ＳＤ7819	土師器 鍋	(口径) (36)cm (器高) —	口縁部オリカエシ後ヨコナデ・端部断面三角形、体部外面ハケ、体部内面ナデ	微砂粒含む	良好	内：にぶい黄橙 10YR7/3 外：浅橙 10YR8/3	50%	器形の歪み大きい 外面煤付着	Ｒ３
11	ＳＤ7819	土師器 鍋	(口径)(20.8)cm (器高) —	口縁部オリカエシ後ヨコナデ・端部断面扁平、体部外面上半ハケ・下半オサエ	密	良好	内：にぶい橙 7.5YR7/4 外：にぶい黄橙 10YR5/4	25%	器形の歪み大きい 外面煤付着	Ｒ11
12	ＳＤ7818	土師器 茶釜形土器	(口径) 13.9cm (器高) —	口縁部ヨコナデ、体部外面タテハケ・内面ナデ	密	良好	内：橙 5YR7/6 外：浅黄橙 7.5YR8/6	口縁部・体部上半完形	体部下半は破片からヘラケズリで調整か	Ｒ４

第117-４次調査

No.	出土遺構	器種	法量	調整・技法の特徴	胎土	焼成	色調	残存度	備考	登録番号
1	ＳＤ7821	土師器 小皿	(口径) 9.0cm (器高) 1.4cm	口縁ヨコナデ、外面オサエ後ナデ、内面ナデ	密	良好	内：浅黄橙 10YR 8/4 外：浅黄橙 10YR 8/3	80%		Ｒ４
2	ＳＤ7821	土師器 小皿	(口径) 9.8cm (器高) 1.6cm	口縁ヨコナデ、外面オサエ後ナデ、内面ナデ	密	良好	内：淡黄 2.5Y 8/3 外：淡黄 2.5Y 8/3	50%		Ｒ10
3	ＳＤ7821	土師器 皿	(口径) 16.7cm (器高) 2.1cm	口縁ヨコナデ、外面オサエ後ナデ、内面ナデ	密	良好	内：淡黄 2.5Y 8/3 外：淡黄 2.5Y 8/3	40%	外面の一部に煤付着	Ｒ５
4	ＳＤ7821	ﾛｸﾛ土師器 台付皿	(口径) 8.1cm (器高) 2.5cm	ロクロナデ、台の部分はヨコナデ	密 金雲母片含む	良好	内：浅黄橙 10YR 8/3 外：浅黄橙 10YR 8/3	90%	中央に焼成前穿孔あり	Ｒ３
5	ＳＤ7821	土師器 鍋	(口径) 27.8cm (器高) －cm	口縁ヨコナデ、外面オサエ後ナデ、内面ナデ	粗 2～5㎜大の砂粒含む	良好	内：にぶい黄橙 10YR 7/3 外：灰白 2.5Y 8/2	口縁部25%		Ｒ７
6	ＳＤ7821	陶器 山茶椀	(口径) 13.4cm (器高) 4.4cm	内外面ロクロナデ、底部回転糸切痕	密	良好	内：灰白 5Y 7/1 外：灰白 5Y 7/1	口縁部25% 高台完存		Ｒ６

No.	出土遺構	器種	法量	調整・技法の特徴	胎土	焼成	色調	残存度	備考	登録番号
7	SD7821	陶器 山茶椀	(口径) 16.3cm (器高) 5.7cm	内外面ロクロナデ、底部回転糸切痕、高台貼付ナデ	密	良好	内：灰白 2.5Y 7/1 外：灰白 2.5Y 7/1	口縁部80% 高台完存		R 1
8	SD7821	陶器 小皿	(口径) 13.4cm (器高) 4.4cm	内外面ロクロナデ、底部回転糸切痕	密	良好	内：灰白 5Y 8/1 外：灰白 5Y 8/1	口縁部60% 高台完存		R 2
9	SD7822	土師器 皿	(口径) 15.7cm (器高) 2.7cm	口縁ヨコナデ、外面オサエ後ナデ、内面ナデ	密	良好	内：淡黄 2.5Y 8/3 外：淡黄 2.5Y 8/3	60%		R 8
10	SD7822	陶器 山茶椀	(口径) －cm (器高) －cm	内外面ロクロナデ、底部回転糸切痕、高台貼付ナデ	密	良好	内：灰白 2.5Y 7/1 外：灰白 2.5Y 8/1	高台60%		R11
11	SD7822	陶器 小皿	(口径) 8.4cm (器高) 1.8cm	内外面ロクロナデ、底部回転糸切痕	密	良好	内：灰白 2.5Y 7/1 外：灰白 2.5Y 7/1	50%		R 9

第117-5次調査

No.	出土遺構	器種	法量	調整・技法の特徴	胎土	焼成	色調	残存度	備考	登録番号
1	SX7844	土師器 皿	(口径)(16.6)cm (器高) (2.9)cm	口縁部ヨコナデ、底部外面オサエ後ナデ	～2㎜白色砂粒やや多く含む	良好	内：橙 25YR7/8 外：橙 25YR7/8	55%		R 1
2	SX7844	土師器 皿	(口径) (18)cm (器高) (3)cm	口縁部ヨコナデ、底部外面オサエ後ナデ	～4㎜白色砂粒含む	良好	内：浅黄橙 7.5YR8/4 外：にぶい橙 7.5YR8/4	75%		R 9
3	SX7844	土師器 皿	(口径)(12.6)cm (器高) (2.6)cm	口縁部ヨコナデ、底部外面オサエ後ナデ	密	良好	内：褐灰 10YR5/1 外：にぶい黄橙 10YR7/2	25%		R10
4	SX7844	土師器 甕	(口径)(22.4)cm (器高)(21.9)cm	口縁端部オリカエシ後ヨコナデ、外面オサエ、内面上半イタナデ・下半オサエ	密	良好	内：浅黄橙 10YR8/4 外：浅黄橙 10YR8/3	50%		R11
5	SX7844	陶器 山茶椀	(口径)(16.4)cm (器高) 4.8cm	口縁部・体部ロクロナデ、底部外面イトキリ、籾殻痕	～1㎜白色石粒含む	良好	内：灰白 2.5YR8/2 外：灰白 2.5YR7/1	45%		R 3
6	SX7844	陶器 山茶椀	(口径) — (器高) — (高台径) 8.2cm	体部ロクロナデ、底部外面イトキリ・籾殻痕	～0.7㎜白色砂粒やや多く含む	良好	内：灰白 2.5Y8/3 外：淡黄 2.5Y8/2	40%		R 4
7	SX7844	陶器 山茶椀	(口径)(17.5)cm (器高) 5.2cm (高台径) 9.4cm	口縁部・体部ロクロナデ、底部外面イトキリ	～1㎜白色砂粒含む	良好	内：灰黄 2.5Y7/2 外：灰白 2.5Y7/1	25%	自然釉掛かる	R 2
8	P 5	土師器 皿	(口径) 8.8cm (器高) 2.0cm	口縁部ヨコナデ、底部オサエ・指圧痕	密	やや軟質	内：浅黄橙 10YR8/4 外：浅黄橙 10YR8/3	100 %		R 5
9	P 5	土師器 皿	(口径) 9.6cm (器高) 2.4cm	口縁部ヨコナデ、底部オサエ・指圧痕	密	やや軟質	内：浅黄橙 10YR8/3 外：浅黄橙 10YR8/4	100 %		R 6
10	P 1	土師器 台付椀	(口径)(17.2)cm (器高) 5.2cm (高台径) 5.6cm	口縁部ヨコナデ、体部外面オサエ指圧痕・内面ナデ、底部外面ナデ・高台ハリツケ後ナデ	～2㎜白色砂粒含む	良好	内：灰白 10YR8/3 外：灰白 10YR8/2	40%		R14
11	P 2	土師器 杯	(口径) (18)cm (器高) 4.1cm	口縁部ヨコナデ、底部外面オサエ後ナデ・内面ナデ	～1㎜砂粒含む	良好	内：橙 2.5YR7/8 外：橙 2.5YR6/8	40%		R15
12	P 6	土師器 皿	(口径) (8.8)cm (器高) 1.8cm	口縁部ヨコナデ、底部外面オサエ後ナデ・内面ナデ	密	良好	内：浅黄橙 10YR8/3 外：浅黄橙 10YR8/4	50%		R 7
13	SD7832	陶器 壺	(底部径)10.8cm (器高) —	体部ロクロナデ、底部外面未調整	～1㎜チャート石粒含む	良好	内：浅黄橙 7.5YR8/3 外：浅黄橙 10YR2/3	底部完形		R19
14	SD7838	陶器 山茶椀	(口径) — (器高) — (高台径) 7.6cm	体部ロクロナデ、底部外面イトキリ後ナデ、高台断面台形、高台に籾殻痕	～2㎜砂粒含む	良好	内：灰白 2.5Y7/1 外：灰白 5Y7/1 自然釉：灰白 10Y8/2	25%		R22
15	SD7838	陶器 壺	(高台径) 8.2cm (器高) —	体部ロクロナデ、底部外面ナデ、高台断面方形	密	良好	内：灰白 2.5Y7/7 外：黄灰 2.5Y6/1 自然釉：オリーブ灰 10Y6/216	10%		R23
16	SD7838	灰釉陶器 椀	(高台径) 7.0cm (器高) —	底部外面イトキリ・内面ロクロナデ、高台断面三日月	密	良好	内：灰白 10YR8/1 外：灰白 2.5Y8/1	20%		R16
17	SD7838	灰釉陶器 椀	(高台径) 7.4cm (器高) —	体部ロクロナデ、高台断面やや丸味のある長方形	密	良好	内：灰白 5Y8/2 外：灰白 5Y8/1 灰釉：灰白 7.5YR8/1	10%		R29
18	SD7838	陶器 山茶碗	(高台径) 8.1cm (器高) —	体部ロクロナデ、底部外面イトキリ後ナデ、高台断面三日月状	密	良好	内：灰白 N8/0 外：灰白 2.5Y8/2 自然釉：灰白 10Y8/2	15%		R21
19	SD7838	陶器 山茶椀	(高台径) 7.4cm (器高) —	体部ロクロナデ、底部外面イトキリ後ナデ、高台断面台形	密	良好	内：灰白 N7/0 外：灰白 N8/0 自然釉：オリーブ灰 10Y6/2	20%		R20
20	SD7838	陶器 山茶椀	(高台径) 8.0cm (器高) —	底部内面ナデ、底部外面イトキリ後ナデ、高台断面逆三角形	～3㎜白色砂粒含む	良好	内：灰白 2.5Y8/1 外：灰白 2.5Y7/1 自然釉：オリーブ灰 10Y6/2	20%		R17
21	SD7838	陶器 山茶椀	(高台径) 6.8cm (器高) —	底部内面ロクロナデ・外面イトキリ、高台断面三日月状	～5㎜白色砂粒やや多く含む	良好	内：灰白 5Y8/1 外：灰白 5Y8/1 自然釉：灰オリーブ 5Y5/3	50%	正立重ね焼き	R25
22	SD7838	陶器 山茶椀	(高台径) 8.6cm (器高) —	体部・底部ロクロナデ、高台断面台形	～1㎜砂粒含む	良好	内：灰白 2.5Y8/1 外：灰白 10YR8/1 自然釉：灰オリーブ 5Y6/3	20%		R27
23	SD7838	陶器 山茶椀	(高台径) 7.6cm (器高) —	底部内面ロクロナデ・外面イトキリ、高台断面逆三角形・籾殻痕	～2㎜砂粒含む	良好	内：灰白 10YR8/1 外：灰白 2.5Y8/1	40%		R26
24	SD7838	陶器 山茶椀	(高台径) 7.7cm (器高) —	体部内外面ロクロナデ、底部内面仕上げナデ、高台断面低い台形	～3㎜砂粒含む	良好	内：灰白 2.5Y8/1 外：灰白 5Y8/1	20%		R28
25	SD7837	陶器 壺	(底径) 8.6cm (器高) —	底部内面ロクロナデ・外面イトキリ	密	良好	内：灰白 2.5Y8/1 外：灰白 2.5Y7/1 自然釉：灰黄 2.5Y6/2	10%		R13

ふりがな	しせきさいくうあと　へいせい8ねんどげんじょうへんこうきんきゅうはっくつちょうさほうこく
書名	史跡斎宮跡　平成8年度現状変更緊急発掘調査報告
副書名	
巻次	
シリーズ名	三重県多気郡明和町斎宮跡埋蔵文化財調査報告
シリーズ番号	14
編著者名	駒田利治・野原宏司・上村安生・大川　操・中野敦夫
編集機関	斎宮歴史博物館
所在地	〒515-325　三重県多気郡明和町竹川503番地　TEL 0596-52-3800
発行年月日	1998年3月25日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯 °′″	東経 °′″	調査期間	調査面積 m²	調査原因
斎宮跡	多気郡明和町斎宮他	24442	210	34°31′55″ ～ 34°32′30″	136°36′16″ ～ 136°37′37″			
第117-1次調査	斎宮字楽殿2894-1					19960906 ～961004	80	住宅新築
第117-2次調査	斎宮字篠林3155,3156					19961021 ～961106	54	住宅新築
第117-3次調査	竹川字中垣内地内					19970116 ～970131	48	町道改修
第117-4次調査	斎宮字牛葉地内					19970127 ～970131	48	側溝改修
第117-5次調査	斎宮字北野3551-1, 3553-4.5,3554-6					19970217 ～970317	465	社宅新築
第117-6次調査	竹川字東裏 266-6					19970305 ～970310	14	車庫新築

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
第117-1次調査	官衙	平安末期～鎌倉	溝、土坑	土師器、山茶椀	
第117-2次調査		室町～近世	溝、土坑	山茶椀、陶器	
第117-3次調査		室町	溝	土師器、山茶椀	
第117-4次調査		鎌倉	溝	土師器、須恵器、山茶椀	
第117-5次調査		平安後期～鎌倉	溝、土坑	土師器、灰釉陶器、山茶椀、陶器	鎌倉時代の大溝
第117-6次調査			攪乱坑		

図　　版

第117-1次調査区全景（東から）

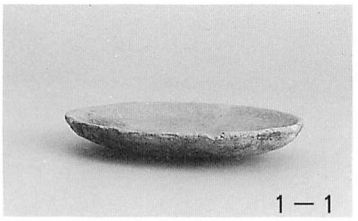
第117-2次調査区全景（南から）

第117-3次調査区全景（西から）

第117-6次調査区全景（北から）

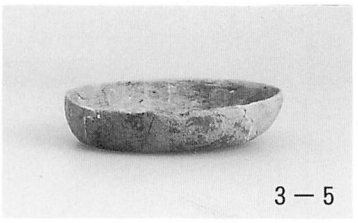
第117-5次調査南区全景（南から）

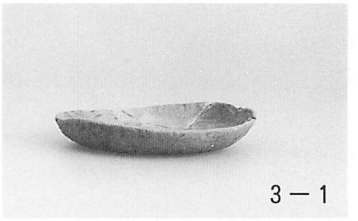
第117-5次調査北区全景（南から）


1－1

1－2

1－5


3－5


3－1

2－3

3－12

3－7

3－8

番号は、調査次数－遺物番号を示す

史跡　**斎宮跡**

平成8年度

現状変更緊急発掘調査報告

平成10年3月25日

編　集　斎宮歴史博物館
　　明和町教育委員会

発　行　明和町教育委員会

印　刷　光出版印刷株式会社